

- 31:1 私は自分の目と契約を結んだ。
どうしておとめに目を留めよう。
- 31:2 神が上から分けてくださる
分け前は何か。
全能者が高い所から下さる
相続財産は何か。
- 31:3 不正をする者にはわざわざいが、
不法を行なう者には
災難が来るのではないか。
- 31:4 神は私の道を見られないのだろうか。
私の歩みをことごとく
数えられないのだろうか。
- 31:5 もし私がうそとともに歩み、
この足が欺きに急いだのなら、
- 31:6 正しいはかりで私を量るがよい。
そうすれば神に私の潔白がわかるだろう。
- 31:7 もし、私の歩みが道からそれ、
私の心が自分の目に従って歩み、
私の手によごれがついていたなら、
- 31:8 私が種を蒔いて他の人が食べるがよい。
私の作物は根こぎにされるがよい。
- 31:9 もしも、私の心が女に惑わされ、
隣人の門で
待ち伏せしたことがあったなら、
- 31:10 私の妻が他人のために
粉をひいてもよい。
また、他人が彼女と寝てもよい。
- 31:11 これは恥ずべき行ない、
裁判にかけて罰せられる罪だ。
- 31:12 滅に、それは
滅びの淵まで焼き尽くす火だ。
私の収穫をことごとく根こぎにする。
- 31:13 私のしもべや、はしためが、

- 私と争ったとき、
もし、私が彼らの言い分を
ないがしろにしたことがあるなら、
- 31:14 神が立たれるとき、
私はどうすればよいか。
また、神がお調べになるとき、
何と答えたらよいか。
- 31:15 私を胎内で造られた方は、
彼らをも造られたのではないか。
私たちを母の胎内に形造られた方は、
ただひとりではないか。
- 31:16 もし、私が
寄るべのない者の望みを退け、
やもめの目を衰え果てさせ、
- 31:17 私ひとりだけで食物を食べて、
みなしごにそれを
食べさせなかったのなら、
- 31:18 ——私の若いときから、
彼は私を父のようにして育ち、
私は、母の胎にいたときから、
彼女を導いた。——
- 31:19 もし、私が、
着る物がなくて死にかかっている者や、
身をおおう物を持っていない
貧しい者を見たとき、
- 31:20 彼の腰が私にあいさつをせず、
私の子羊の毛で
それが暖められなかったのなら、
- 31:21 あるいは、私を助ける者が
門のところにいるのを見ながら、
みなしごに向かって私の手を
振り上げたことがあるなら、
- 31:22 私の肩の骨が肩から落ち、
私の腕がつけ根から折れてもよい。

ヨブは自分には全く罪がないと主張します。確かに人と比べるなら、誰よりも潔白でしょう。しかし神の前には完全な者は1人もいません。正しいことを行うのは大切なことです。しかし、それで自分は非がないと思込むと、成長やきよめのチャンスを失ってしまいます。またヨブの友人たちのように人を傷つけることもあります。

私たちは、ここでヨブが自己義認を主張する一つ一つを吟味しましょう。その上で、自分は完全ではないからもっと成長したいとの思いが大切です。ピリピ書のパウロのように。

「3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」ヨブは下の立場の人、弱い人、乏しい人への態度に心を配っていたようです。また神以外のものをより頼むように見えるどんなことも避けていたようです。これらの点でヨブのような良い生き方をしましょう。その上で、まだ成長し、て行きましょう。

ローマ書にあるように、「12:2 ...何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変え」て行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？